

2022 年度学生懇話会報告書

2022 年 12 月 14 日

FD 推進委員会 学生懇話会 WG (大槻、菊地、畠山)

1. 概要

日 時：2022 年 12 月 7 日 (水) 12:10～12:55

参加者：学生 12 名 (国文 0 名、仏文 3 名、英文 1 名、児童 1 名、発達 5 名、初等 2 名)、
教員 3 名 (菊地、土井、畠山)、職員 3 名 (大槻、北野、森田)

場 所：11 号館 3 階クララホール

2. スケジュール

12:00～ 開場

12:10～ 開会の言葉、趣旨・スケジュール説明

12:15～ グループセッション

12:45～ まとめ (グループ発表)

12:55 終了

3. テーマ

- ① 初年次必修科目で学びたいことって何？
- ② これからの女子大での教育ってどうあるべき？

4. 報告

テーマ①については、学年によって初年次必修科目を完全オンラインで受講したか、対面も交えて受講したかが異なり、それぞれの立場から自身や友人の経験が語られた。

「情報リテラシー」について、メールの書き方や Word、Excel といった基本ソフトの使い方を学ぶことが出来る点は好評であった。一方で、自前の PC を持たない学生も増えてきていることもあってか、習熟度に差があり、授業が基礎的な内容にとどまってしまう、または授業内容についていけないことに対し、不満を持つ者も少なからずいた。

「パブリックリテラシー」について、著作権やレポート執筆の際の参考文献の扱いなど、大学生活において必須の内容を学ぶことができ有意義であるという意見が多かった。一方で、PC の操作を前提とする授業内容も少なくないため、習熟度にばらつきがあり、その対策として「情報リテラシー」における学びを経た後に「パブリックリテラシー」へ移行した方がよい、二つを統合した方がスムーズなのではないか、という意見もあった。

「キリスト教学」について、グループワークを取り入れた内容が好評で、オンライン環境

下でも各自の意見を交換する場が持たれたことにメリットを感じる学生が多くいた。しかし一方で、高校までにキリスト教についての基礎的な知識を習得している者もあり、必修科目としての扱いは2年次まででもよい、また習熟度に応じたクラス分けが必要、という意見もあった。

初年次必修科目に関する議論に共通して、習熟度に応じたクラス分けを望む声が多く聞かれた。またクラスによって課題の量や内容が異なる点についても、不満を持つ学生は少なくなかった。

テーマ②については、女子大のメリットとして、少人数教育、手厚い就職支援、女子のみであることによる生活のしやすさなどへの言及が多かった。高校まで女子校に在籍していてその雰囲気分かっているから志望したという者もいれば、共学校に通っていて進路選択時に女子大を候補のひとつとしていたという者もいた。

一方で、卒業後の進路に関して悩みを抱えている学生も少なくなかった。例えば、各学科に設置されている「キャリア研究」の授業では、卒業生がゲストスピーカーとなって、学科での学びをどのようにキャリアに生かしているかを語るケースが多い。しかしそこに登場する卒業生を誰にするかは、担当教員や学科がある程度恣意的に決定せざるを得ず、必ずしもバリエーションに富んだものとはいえない。そのことを踏まえ、学科での学びとは一見関係ないように思える進路だとしても、学生の選択肢を広げるようなキャリアの可能性を提示してほしいという意見も複数寄せられた。

懇話会全体を通じて、単に授業や学校生活に対する不満を述べるだけでなく、各参加者がより良い学びを実現するための改善案を具体的に提示していた点が印象的であった。この懇話会報告を踏まえ、カリキュラムのブラッシュアップを引き続き実施していく必要があるだろう。

5. 参考資料——学生の意見（カッコ内は学年を示す。不明の場合あり）

テーマ①

<初年次必修科目で学びたいことって何？>

➤ 情報リテラシー

- ◆ コロナ初年度、大学から受け取った何十枚もの PowerPoint を自分で読み授業に臨んだのが大変だった。授業内容は今後社会に出た時に役立てられると感じた。(3)
- ◆ 良かったのは、メールの送り方（宛名の書き方など）を最初に学べたこと。他の科目のオンライン授業の際にも活用することができた。(3)
- ◆ 対面授業、オンライン授業どちらでも直接やメールで先生に質問をすることができ、次年度からの課題提出に役立たせることができた。(2)
- ◆ ネットの情報や Word や Excel の使い方や情報を学べたのは有益だった。オンラインでは自習のような形が多く、気軽に質問ができず難しく感じた。(2)

- ◆ オンライン授業はすぐに質問ができず、一人でやるため、うまくいかない時に困った。わからないものがそのままになってしまった。大学に一度も通っていない状態で聞ける人がおらずメールでの質問も気軽にできず、もう少し質問がしやすかったり、友達と相談できたりする環境が欲しい。(複数)
- ◆ 授業内容については Excel やセルの操作方法など基礎だけでなく、小学校や幼稚園の教員になった際、将来的にも役立てられる部分を教えてほしい。(2)
- ◆ 大学で最初にワード・エクセルの使い方が学べたのは良かった。情報の検索の仕方、ひとつの情報だけでなく色々な情報を検索することの必要性を学び、その後のレポート作成等に活かした。(2)
- ◆ 半年の授業は短い。2年生でもやりたかった。また、PC が得意な学生と苦手な学生が授業に混在しているため、苦手な子の指導に先生がついてしまう。そのため課題が終わってしまうと得意な学生は手持無沙汰になってしまった。(2)
- ◆ 高校では PC を使ったことがなかったので、ワード・エクセルが学べたのは良かった。苦手な自分は授業内に課題が終らず、家に持ち帰りこなすのが負担だった。(2)
- ◆ ワード・エクセルが学べたのは助かった。各回授業のテーマ課題が決まっていた学生レベルがまちまちなので課題をこなすとその授業ですることが無くなってしまふ。学生の習熟度でクラス分けしてもらえると良かった。(4)

➤ パブリックリテラシー

- ◆ 著作権の扱い方を主に学んだ。課題提出の際は前期の集大成を作り出せたという達成感を味わえる授業だった。内容は社会に出た時に役に立つ授業だと感じた。(2)
- ◆ 参考文献の書き方など他の授業で活用できたのでよかったが、授業によっては書き方が変わるので、もっと詳しく学びたかった。(2)
- ◆ 著作権の取扱いに関して等多くは一般常識的な内容で、学科の授業で学ぶ部分と重複している点もあり、あまり印象に残っていない授業。(3)
- ◆ 他の授業よりも課題も多く、取り組むのに時間を費やした授業。回にもよるが、当時は1年生でパソコンになれておらず、レポートの書き方や注釈引用の操作を自力でやる作業に時間がかかった。レポート課題の多い学科は前期にレポートの書き方を学ぶのは良いと思うが、パソコンの使い方も同時に学びたかった。(3)
- ◆ 先にパソコン操作から学びたかった。厚い教科書を購入したのに、授業ではあまり使わない。もっと細かい内容を学びたかった(3)
- ◆ 先生によって進める速度や課題も違うように感じる。担当の先生はかなり課題に厳しく毎週課題が出たが、友人は3回に1回程度だったので不公平に感じた。課題の頻度や量や内容を統一してほしい。(2)
- ◆ 受講者数が15人から40人くらいとばらつきがあるようだった。同じ授業名な

らば同じ授業環境にした方がよい。(複数)

- ◆ レポートの書き方やビジネスメールの書き方を初めに学べるのが良かった。情報リテとパブリテの2科目の修得順は情報リテが先のほうが良いのでは？ ワードやPC操作を学んだあとじゃないとパブリテの授業にすんなり入れない。(2)
- ◆ 情報リテラシーとパブリックリテラシーの授業内容が合体したような授業展開のほうが良い。(2)
- ◆ 資料がいまだに役に立っている。課題の量が多かった。(2)
- ◆ 引用・参考文献の書き方など先々役に立った。大学に入ったばかりの1年生には課題の多さは負担かもしれず改善されてもよいかも。(4)

➤ キリスト教学

- ◆ 初めて聖書に触れた上にオンラインだったため文章で解説を読むだけでは頭に入ってこなかった。2年次で対面授業になり、板書をみながら先生に解説してもらうことで理解が深まった。(3)
- ◆ キリスト教学を学ぶことで、生きていく上でどうすればよいのかを考えられた。具体的には manaba course に自分の人生について学生それぞれが書く機会があり、受講生でコメントをし合った。他の学生の話から学ぶことや、自分の体験から気づきがあった人がいると知れる良い授業だった。(2)
- ◆ 中高からキリスト教には触れていたため授業はわかりやすく、試験も取り組みやすかったが、友人はゼロから始めるので難しいと言っていた。1年次は参加型でグループワークもあり反復学習ができたが、2年になり講義型になり、1年次と比べると取り組みづらくなった。テストもかなり難しく、先生によって授業の雰囲気が変わる。(2)
- ◆ 1年次はオンライン、ラジオ形式をリアルタイム聞き、チャットで課題(コメント)を入力する授業だった。授業を受けながら受講生の意見が見られ、目からも耳からも解説してくれるのでわかりやすく、学んだことを他で活かした。2年次は先生が一方向的に話す講義形式になり、1年次の方が楽しかった。(3)
- ◆ 講義型よりも参加型の方がキリスト教については学びやすく取り組みやすい。そういう機会を増やしてほしい。(3)
- ◆ クラスによってテストの難易度が違うため統一したほうが良い。(3)
- ◆ 授業は朝が早く、内容はディスカッション・動画鑑賞が多かったイメージ。高校が仏教系だったので不安だったが、詳しく学べて一般教養としても役に立っていると思う。聖書の持ち運びが大変、聖書は購入させられたが授業では使わなかった。教員によって教え方や評価方法が違うイメージ。ショッキングな映像を見せられることがあったが、気分が悪くなる学生もいるため予告は必要。リアペヤリレポートより、自分としてはテストを実施してもらう方が学習効果が高いと思う。授業もデ

- イスカッションで他の人の意見を聞けるため学修効果が高いと思う。(2)
- 中高からミッション系の学生には4年生までの宗教履修は辛い。必修は1・2年まででよい。(2)
- 聖書の言葉や考え方が学べたのは良かった。(2)
- リアペ、教員により授業の進め方や方針が違う。宗教の必修は1・2年までで良い。(4)

テーマ②

〈これからの女子大での教育ってどうあるべき?〉

➤ 女子大のメリット

- 少人数教育とうたっている大学は面倒見がよいため本学を選択した。(2)
- 女子大は共学だった高校のときより、そこまでカーストのようなものを気にしなくてよい。(3)
- 前期のキャリア研究で、時代が変わるにつれて、女性の在り方・見方は変わることや、「女性は家事をするもの」というのは古い概念だということを学んだのは女子大ならではのと思った。(2)
- 幼・少・中と共学で、高校は女子高を選択。少人数でアットホーム、校舎がきれい、ものをきれいに使うということや、グループでもみんながリーダーを経験できて、カーストもあまりなさそうという理由で女子高を選んだ。また、みんなが知り合いのような、和やかな独特な雰囲気が好き。(4)

➤ 女子大で学びたいこと

- 経営的に厳しい面もあるのかもしれないが、ITの授業も始まって今は変化の時かと思うので、授業のカリキュラムも時代に合わせてもっと変わってほしい。学生会ではメイク講座などもやっているように。また、キャリアの変化に合わせた内容をもっと取り入れてくれたらキャリア支援課もより利用するようになると思う。学科の卒業生の話を知りたい(4)
- 「キャリア研究」などを通じて、フ文の卒業生(先輩)の話を知ることができ、フランス語を生かせる職業について知ることができた。先輩がグループの間を回って質問に答えてくれた。(2)
- 学科に関係ない職に就いた先輩の話も参考になる。学科の学びが別の職で活かしている、という話が授業で聞けるとよい。(3)
- 先生にならない人の進路をもっと知りたい。(2)
- メールでキャリアなどのセミナーの案内がくるが、タイトルだけではわからない

ので、それがどう何に役立つのかを解説してほしい（２）

- ◆ 専門とは別の分野に関心があり、発達心理ではない分野に進むことが決まったが、本学がアットホームとはいえ、発達はゼミでも上下の交流はないため、自分から動かないと進路はつかめないことを実感している。（４）
- ◆ 「キャリア研究」が、逆にキャリアの幅を狭めている可能性もあるのではないか。また大学が捉える（学校パンフレットに載るような）キャリアと学生の知りたいキャリアにギャップがあるのかもしれない。（教員）

➤ 女子大を大切な知り合いに勧めるか

- ・選択肢としてあってよい。職員が親身になってくれ少人数なところもよい。（複数）
- ・知り合いに進めるかと言われれば、迷う。ただ少人数の中で、相性があう先生を見つけられれば一番いいと思う。（４）